

ろうさい病院つうしん

発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6 TEL: 052-652-5511
<http://www.chubuh.johas.go.jp/> FAX: 052-653-3533

目次: ご挨拶…P1 私の臨床メモ その4…P2 院内MRI装置の更新のお知らせ…P3
地域医療連携室からのお知らせ…P4

ご挨拶 本年もよろしく お願いします



院長 佐藤 啓二

連携医療機関の皆様には大変お世話になっております。本年もよろしく申し上げます。
当院の状況をご報告させていただきます。

・コロナ禍への対応

令和2年12月よりコロナ専用HCU 8床の運用を開始しました。コロナ第4波に対応すべく、令和3年6月1日より20床+1床 (ICU) に増床しましたが、8月末には病床利用率が90%を超えましたので、9月6日より25床+1床に増床対応しました。

ワクチンについては、当院職員を除き、通院患者さんや地域医療機関の皆さん2,984名に (2回済) 接種しました。令和4年1月より3回目の接種を実施しております。

・MRI導入

シーメンス1.5Tの機種に加えて、令和3年12月より同社3.0Tの機種を導入しました。C@RNA connectの利用により予約検査が可能です。

・令和4年度の取り組み

○HPリニューアル: 病院情報についてスマホ利用が70%を超えていることに対応し、全面リニューアルを計画しております。

○外来診察室見直し: 診察枠の拡大と効率化による待ち時間短縮を狙って、委員会で検討し、実施を予定しております。

○会計手順: 院内滞在時間の短縮と有効利用を実現する為に、会計計算書の窓口提出を不要とする事を考えております。会計手順の見直しと機器整備を含めて検討中です。

○入退院支援センター機能の強化: 入院直後より検査・治療が開始できるようにして、入院期間の短縮と早期の社会復帰が可能となるよう、同センター機能強化の取り組みを進めております。業務内容の見直しに加えて、令和4年度に説明ブース等の改修工事も予定しております。



私の臨床メモ（専門医による治療紹介）

その4

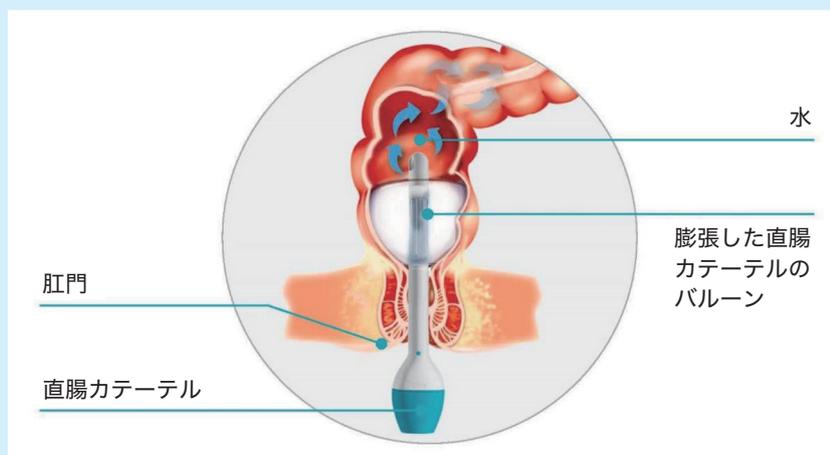
脊髄損傷者の排便障害に対する経肛門的洗腸療法

リハビリテーション科部長 渡邊 友恵

我が国の外傷性脊髄損傷の発生頻度は増加傾向にあり、受傷時年齢は高齢化し、頸髄損傷が全体の8割以上を占めると報告されています。脊髄損傷者は8割以上で膀胱直腸障害を合併し、排尿や排便の障害を来します。排便障害では、腸蠕動低下に加え便意の低下や排便反射の減弱により便失禁と便秘の両者が起こるため、体調不良やQOLの低下を来します。多くの症例で、内服・摘便や坐薬・浣腸などでの排便管理が必要となりますが、特に頸髄損傷では、排便関連の動作獲得が難しく、6割以上の症例で介助が必要となるため、排便管理不良は介助量の増加にも繋がります。

脊髄損傷者の難治性排便障害に対し、2018年より経肛門的洗腸療法が保険適応となりました。経肛門的洗腸療法は、海外では以前よりその有効性や安全性が示され、脊髄損傷者の便失禁や便秘の改善によりQOLが向上する事が報告されてきました。当院でも2020年から経肛門的洗腸療法を採用し、適応がある症例に順次導入を行い、その多くから高い満足度の報告を得ています。経肛門的洗腸療法は、写真の専用器具を使用し、湯500-1000mlを肛門から注入することで、直腸～下行結腸を空虚化するという仕組みで、注入された湯により、結腸や直腸が刺激され蠕動運動促進や排便反射の誘発が得られます。結腸や直腸肛門機能の低下した脊髄損傷者の排便障害の病態に適しており、今後も排便管理方法の選択肢の一つとなると考えています。

脊髄損傷者においては、急性期後も医療支援の継続が必要となる症例が多いため、地域の先生方との医療連携を積極的に進めていきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。



中央放射線部

院内MRI装置の更新のお知らせ

令和3年12月20日より新MRI装置、「3テスラMRI SIEMENS MAGNETOM Lumina」が稼働しました。

当院連携医の先生方には、更新工事に伴い約2ヶ月の間、ご迷惑をおかけしました。

ご利用いただくにあたり、新装置のメリットを以下の6項目として紹介させていただきます。

1. 静磁場強度3テスラ

高い信号強度による微細病変の把握と診断、高コントラスト画像の取得が可能となります。

2. 高時間分解能画像

単純検査、ダイナミック、造影検査において優位点が数多くあり、頭部、腹部、骨盤、乳腺領域等の腫瘍精査、質的診断に有用です。

3. 最適化された高画質画像

高い磁場強度により短時間・高分解能・MR信号比のバランスを維持し、高画質な検査が可能です。

4. 最新機能による検査対象者の拡充

体動低減技術、高時間分解能効果により、従来の検査困難な患者さんへの選択肢が増えます。

5. AI技術をベースとした機能

AI技術で開発された撮像断面支援機能により、フォローアップ時に有用な再現性の高い断面が得られます。(頭部・脊椎・肩・膝・股関節領域が対象)

6. より安全安心な検査

医療安全を最優先した着脱式寝台を採用しました。また、軽量の頭部コイル、体幹部コイル、関節コイル等により患者さんの負担を軽減します。最新技術で「患者さんにやさしい」工夫が多数採用されています。

MRIにおいてはC@RNAによる「平日、土曜日・日曜日のMRI検査」インターネット予約が可能です。(勤労者医療の推進)

※インターネット接続できるパソコンとプリンターがあれば診察、検査予約を取得できます。

受診される地域の患者さんのために「より安全、安心な明るい医療」を考え、良質な医療サービス、医療安全、放射線安全管理の実践に取り組んでいます。

今後とも、スタッフ一同より良い医療画像を提供し、土日運用も含め共同利用しやすい環境を整えて参ります。引き続きご支援ご指導賜りますよう宜しくお願い致します。



地域医療連携室からのお知らせ

～令和3年度 病病・病診連携サービス実態調査の結果について～

地域医療連携サービスの向上を目的として、「病病・病診連携サービス実態調査」を実施し、連携医療機関の皆さまからいただいた評価を数値化いたしました。

実施方法及び結果については以下のとおりとなりましたので、ご報告いたします。ご協力いただきました先生方には、改めて御礼申し上げます。

【実施期間】 令和3年11月10日～12月10日

【調査方法】 直近1年の紹介件数上位210の医療機関に対し調査票を郵送。

同封した返信用封筒にて回収。

【回収率】 33.3%

【結果】 有用率（全体評価） 80.9%（昨年度に比べ、4.0%減少）

全体評価としては、昨年度に比べ、4.0%減という当院にとっては厳しい結果となり、項目別の満足度も昨年度より若干ではございますが低下いたしました。これらの結果につきましては、病院全体で共有を図り、改善に向けた取組を皆様にフィードバックすると共に、今後の地域医療連携の機能向上に努めて参りますので、引き続き患者さんのご紹介をよろしくお願いいたします。

なお、調査を依頼させていただきました連携医療機関におかれましては、項目別の結果を送付させていただきますので、ご確認いただければ幸いです。

医師交代

☆退職（令和3年10月31日付け）

御子柴 雄司

眼科医師

☎地域医療連携室（平日 8:15～19:30）
052-652-5950（TEL）
052-652-5716（FAX）

室長：坂口 憲史（副院長）
課長：内村 一郎（課長）
事務担当：今枝 智子・内藤 遵子・
金井 久実

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

編集後記 本年もよろしくお願い申し上げます。病病・病診連携サービス実態調査の結果等を踏まえて、地域医療に貢献して参ります。

広報委員長：神経内科 亀山 隆
編集担当：神経内科 上條 美樹子
歯科口腔外科 鶴迫 伸一
事務局 新田 晃子 今関 信夫